

## かぶとバイオファーム合同会社で「グリーンローン」を成約

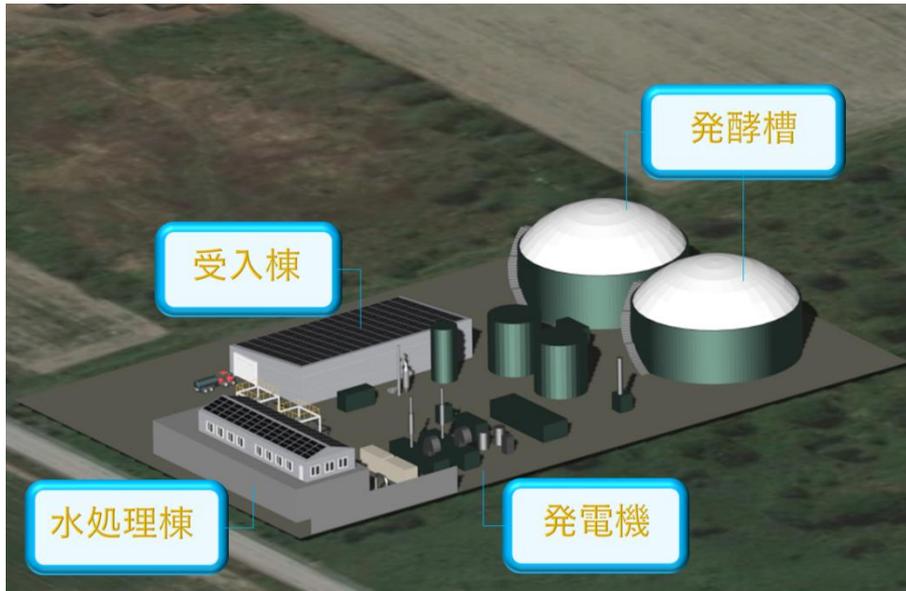
株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 <sup>はんざわじゆんいち</sup>半沢淳一、以下「当行」）は、「かぶとバイオマスプラント有限責任事業組合」代表組合員である「かぶとバイオファーム合同会社（以下「同社」）」との間で、バイオガス発電所建設を資金使途とした「グリーンローン」によるシンジケーション方式のタームローン契約（以下「本ローン」）を締結いたしました。尚、本ローンは、牛糞を原料とするバイオガス発電事業への、国内初の「グリーンローン」案件となります。

本プロジェクトは、岡山県笠岡湾干拓地で畜産業を営む有限会社希望園を中心とする畜産農家7軒と三和電気土木工事株式会社（代表取締役 <sup>もり ひろあき</sup>森博明）が設立した「かぶとバイオファーム合同会社」が組合員となって設立した「かぶとバイオマスプラント有限責任事業組合」が事業を行うものです。笠岡湾干拓地では約1万頭もの牛が飼育されており、大量の牛糞処理並びに臭気軽減が地域課題となっております。当有限責任事業組合と三和電気土木工事株式会社は笠岡市と協定を結び、牛糞を原料としたバイオガス発電事業を運営することで、再生可能エネルギー発電によるSDGs貢献、地域資源循環、地域課題解決に努めます。

本ローンは、株式会社日本格付研究所（JCR）より、十分な環境改善効果が見込まれ、且つ、環境面・社会面における潜在的にネガティブな影響への配慮がなされているプロジェクトとしての確認がなされ、グリーンローン原則が定める資金使途・プロジェクトの評価と選定プロセス・調達資金の管理・レポート・発行体の環境活動の第三者評価も取得し、最上位の「Green 1(g1/m1)」の評価を受けています。

### 〈本ローンの概要〉

契約締結日	2022年7月26日
アレンジャー/エージェント	株式会社三菱UFJ銀行
組成金額	35億円
資金使途	バイオガス発電所建設資金
参加行	株式会社徳島大正銀行、株式会社みなと銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社中国銀行、笠岡信用組合



〈完成イメージ図〉

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFJ Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以上